

(イ) 他文献を引用することによって直接医療費を算出

(ウ) 医療資源投入量について仮想シナリオを想定し、公定価格を乗じて直接医療費を算出

本研究では、「(イ) 他文献を引用することによって直接医療費を算出する研究」を対象に、疾患領域別に HTA 文献をリストアップし、引用された文献の一覧表を作成した。この判断は、HTA 実施者が直接医療費を算出するために、先行研究の中から最も適切な文献を選択していると期待されるため、比較的質の高い文献が選別されている可能性が高いと考えたためである。

一方、「(ア) 著者が独自に直接医療費を算出している文献」は、推計値の質に大きなバラツキがあると推測されるため、本稿では一覧表として掲載せず、該当文献のリストを提示するに留めた。また、「(ウ) 医療資源投入量について仮想シナリオを想定し、公定価格を乗じて直接医療費を算出」は、仮想シナリオの信頼性評価が困難であるため文献リストを提示しなかった。

#### エ. 交通費

非関連医療費として交通費を含めている HTA 文献は、文献名とその算出方法を一覧表に示した。

#### オ. 家族介護費

非関連医療費として家族介護費を含めている HTA 文献は、文献名とその算出方法を一覧表に示した。

#### カ. 生産性損失

非関連医療費として生産性損失を含めている HTA 文献は、文献名とその算出方法を一覧表に示した。

### (3) 結果

#### 1) 文献検索結果

図表 17 は検索結果の領域別の内訳を示している。「費用効果分析 (cost-effectiveness)」領域の検索式が最も検索数が多く 3,039 文献であった。一方、「費用分析 (cost of illness)」は最も少なく 36 文献であった。全 8 領域で 2012 年 5 月 12 日までに 4,945 文献が報告されていたが、「抄録あり・原著論文・2011 年 12 月 31 日まで」といった条件を追加した結果、885 文献に絞りこまれた。

885 文献を対象に抄録レビューを実施した結果、「日本国内を対象にした医療技術評価研究」と考えられる文献は 206 文献であった。したがって、本文レビューの対象は 206 文献となった。

#### 2) 状態推移確率

評価対象論文のうち、状態推移確率を先行文献から引用していた論文数は 56 報であった。

図表 18～図表 52 は、疾患領域別・評価対象別の状態推移確率の被引用文献をリスト化した結果を示している。なお、状態推移確率の値は、様々なバイアスが含まれうることに留意する必要がある。カナダのマクマスター大学が提唱した EBM を構成する Hierarchy of Evidence にしたがえば、医療経済評価研究において状態推移確率を先行文献から外挿する際には、エビデンスレベルの高い文献を優先することが求められる。本レビューでは、被引用文献の研究デザインを個別に評価することができなかつたため、実際に活用する際には、個々の文献のエビデンスレベルを確認することが不可欠である。

図表 17 HTA 文献の検索結果

No.	検索式	検索数
#1	臨床経済/TI	83
#2	医薬品経済学/TH or 医薬品経済/TI or 薬剤経済/TI or ファーマコエコノミクス/TI or Pharmacoeconomics/TI or pharmacoeconomics/TI or (医薬品 and (医療費 or 薬剤費))	1413
#3	費用効果分析/TH or 費用効果/TI or 費用-効果/TI or Cost-Effectiveness/TI or Cost-effectiveness/TI or cost-effectiveness/TI or "Cost Effectiveness"/TI or "Cost effectiveness"/TI or "cost effectiveness"/TI or コストエフェクティブネス/TI or コスト・エフェクティブネス/TI or コスト-エフェクティブネス/TI	3039
#4	費用便益分析/TH or 費用便益/TI or 費用-便益/TI or Cost-Benefit/TI or Cost-benefit/TI or cost-benefit/TI or "Cost Benefit"/TI or "Cost benefit"/TI or "cost benefit"/TI or コストベネフィット/TI or コスト・ベネフィット/TI or コスト-ベネフィット/TI or WTP/TI or "Willingness to Pay"/TI or "Willingness to pay"/TI or "willingness to pay"/TI or 支払意思/TI	545
#5	費用効用分析/TH or 費用効用/TI or 費用-効用/TI or Cost-Utility/TI or Cost-utility/TI or cost-utility/TI or "Cost Utility"/TI or "Cost utility"/TI or "cost utility"/TI or QALY/TI or "Quality Adjusted Life Year"/TI or "Quality adjusted life year"/TI or "quality adjusted life year"/TI	220
#6	費用分析/TI or 疾病による損害/TH or 疾病による損害/TI or "Cost of Illness"/TI or "cost of illness"/TI	48
#7	費用最小化分析/TH or 費用最小化/TI or Cost-Minimization/TI or Cost-minimization/TI or cost-minimization/TI or "Cost Minimization"/TI or "Cost minimization"/TI or "cost minimization"/TI	36
#8	( 医薬品/TH or 医薬品/AL ) and ( ( 医療費/TH or 医療費/AL ) or ( 薬剤費/TH or 薬剤費/AL ) )	714
#9	#1 or #2 or #3 or #4 or #5 or #6 or #7 or #8	4945
最終	(#9) and (AB=Y PT=原著論文 PDAT=:2012/3/31)	885

図表 18 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
13	胃がん（早期）	完全切除の確率	土山. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 645.
			武田. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 644.
			森田. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1993.
			貝瀬. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.
			勝木. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.
		後出血率	武田. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 644.
			森田. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1993.
			志村. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 609.
			遠藤. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 516.
			平澤. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 514.
			加澤. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 647.
			宮崎. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 643.
			今川. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.
			青木. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1934.
			大橋. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.
			大江. <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 608.
			城戸. <i>広島医学</i> 2004; 57: 67-72.

図表 19 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
13	胃がん（早期）	穿孔率	武田, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 644.
			森田, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1993.
			貝瀬, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.
			勝木, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.
			志村, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 609.
			遠藤, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 516.
			平澤, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 514.
			加澤, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 647.
			宮崎, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 643.
			今川, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.
			青木, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1934.
			大橋, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.
			大江, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 608.
			城戸, <i>広島医学</i> 2004; 57: 67-72.
			山本, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 608.
			豊永, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 516.
岡, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1750.			
小沢, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1939.			

図表 20 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献	
13	胃がん（早期）	偶発症のため外科手術を要した確率	武田, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 644.	
			森田, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1993.	
			貝瀬, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.	
			平澤, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 514.	
			宮崎, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 643.	
			今川, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S1): 515.	
			大橋, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.	
			城戸, <i>広島医学</i> 2004; 57: 67-72.	
		完全切除ができなかった場合の、相対非完全切除と絶対非完全切除の割合	勝木, <i>Gastroenterol Endosc</i> 2004; 46(S2): 1932.	
			Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.	
			Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.	
			日本胃癌学会(編). 胃癌治療ガイドライン 医師用. 金原出版 2004.	
		再発までの期間	再発時の治療法について、再発 EMR を行う場合と外科手術を施行する割合	Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.
				Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.
				Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.
				Ida, <i>Dig Endosc</i> 2004; 16: 295-302.

図表 21 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
14	胸痛	TI心筋SPECTにて偽陰性となった狭心症患者の心事故発生率、真陰性となった胸痛患者（有意狭窄なし）の心事故発生率	林. <i>核医学</i> 1997; 34: 443-451.
		心事故発生患者のうち、心臓性死亡率	林. <i>核医学</i> 1997; 34: 443-451.
		運動負荷TI心筋SPECTの狭心症診断における精度	Tamaki. <i>J Am Coll Cardiol</i> 1984; 4: 1213-1221.
18	風疹	予防接種法改正前の風疹ワクチン接種率	寺田. <i>感染症学雑誌</i> 1999; 73: 1038-1041.
		集団接種における接種率	寺田. <i>日本小児科学会雑誌</i> 1997; 101: 1713-1714.

図表 22 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
27	乳がん	transition probabilities between the third-line CT state and relevant health states	Adachi. <i>Br J Cancer</i> 1996; 73: 210-216.
			Kuroi. <i>Breast Cancer</i> 1997; 4: 115-119.
30	食道がん	CR率	著者独自推定
		non CR率	著者独自推定
		1年再発率及び【PD】におけるMST	著者独自推定
35	膵がん（切除不能進行性）	effective	Ueno. <i>Oncology</i> 2005; 61: 171-178. Okusaka. <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 2008; 61: 615-621.
		PDの確率	Ueno. <i>Oncology</i> 2005; 61: 171-178. Okusaka. <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 2008; 61: 615-621.
		二次治療への移行確率	Ueno. <i>Oncology</i> 2005; 61: 171-178. Okusaka. <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 2008; 61: 615-621.
		grade3以上の好中球減少症発症率	Ueno. <i>Oncology</i> 2005; 61: 171-178. Okusaka. <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> 2008; 61: 615-621.

図表 23 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
42	C型肝炎	インターフェロン治療における有効率: ペグイントロンとレボテール 48 週間併用療法	瀬崎. <i>肝胆膵</i> 2006; 52(1): 41-46.
		インターフェロン治療における有効率: ペグイントロンとレボテール 24 週間併用療法	瀬崎. <i>肝胆膵</i> 2006; 52(1): 41-46.
		年間推移確率 (年率): 無症候性キャリアから慢性肝炎	Okanoue. <i>J Hepatol</i> 2005; 43(4): 599-605.
		年間推移確率 (年率): 慢性肝炎から代償性肝硬変	Ikeda. <i>J Hepatol</i> 1998; 28(6): 930-938.
		年間推移確率 (年率): 慢性肝炎から肝がん	Ikeda. <i>J Hepatol</i> 1998; 28(6): 930-938.
		年間推移確率 (年率): 代償性肝硬変から非代償性肝硬変	Imasaki. <i>Liver International</i> 2005; 25: 772-778.
		年間推移確率 (年率): 代償性肝硬変から肝がん	Kobayashi. <i>J Med Virol</i> 2006; 78(4): 459-465.

図表 24 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
42	C型肝炎	年間推移確率 (年率): 非代償性肝硬変から肝がん	Sola R. <i>Liver Int</i> 2006; 26(1): 62-72.
		年間推移確率 (年率): 非代償性肝硬変から死亡	Imasaki. <i>Liver International</i> 2005; 25: 772-778.
		年間推移確率 (年率): HCV 感染以外を原因とする死亡率	日本肝がん研究会 肝がん追跡調査委員会編. 第 17 回全国原発性肝がん追跡調査報告. 日本肝がん研究会事務局 2006.
45	消化性潰瘍 (十二指腸潰瘍)	Annual ulcer recurrence rate: H2-blocker maintenance therapy	Nomura. <i>Ann Intern Med</i> 1994; 120: 977-981.
47	子宮頸がん	HPV 感染率	Inoue. <i>Int Gynecol Cancer</i> 2006; 16: 1007-1013.
		死亡率	厚生労働省大臣官房統計情報部. 平成 16 年簡易生命表 (女). 2008.
		検診率	地域保健・老人保健事業報告書. 2004.
		CIN1 検出	Inoue. <i>Int Gynecol Cancer</i> 2006; 16: 1007-1013.
		CIN2.3 の診断率	Inoue. <i>Int Gynecol Cancer</i> 2006; 16: 1007-1013.
		癌死亡率	国立がんセンター中央病院の治療成績 H 子宮がん. 2008.
		癌治癒率	国立がんセンター中央病院の治療成績 H 子宮がん. 2008.

図表 25 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
51	肺炎球菌による小児急性中耳炎	治療分析モデルの分岐確率	日本耳科学会. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌. 2006.
55	静脈血栓塞栓症	静脈造影による DVT 検出率 (FPX 群)	Ochi T. FPX 臨床試験.
			Ochi T. FPX 臨床試験.
			富士. FPX 臨床試験.
		静脈造影による DVT 検出率 (予防非実施群)	Ochi T. FPX 臨床試験.
			Ochi T. FPX 臨床試験.
			塩田. 骨折 2002; 24: 83-87. 河井. 骨折 2007; 29: 173-175.
		症候性 DVT 発生率	藤田. 整形外科 2000; 51: 745-749.
		症候性 PTE 発生率	肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン作成委員会. 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン. 2004.
		PTE 死亡率(突然死)	Ota M. <i>Heart Vessels</i> 2002; 17: 7-11.
		PTE 死亡率(治療にもかかわらず死亡)	中村. 静脈学 2002; 13: 335-342.
FPX 投与に伴う大出血発生率	Ochi T. FPX 臨床試験.		
	Ochi T. FPX 臨床試験.		
	富士. FPX 臨床試験.		
症候性 VTE に伴う大出血発生率	中村. 静脈学 2002; 13: 335-342.		

図表 26 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
56	うつ病	パロキセチン治療の脱落	三浦. 薬理と治療 2000; 28: 187-210.
			三浦. 薬理と治療 2000; 28(Suppl.): 137-160.
		TCA 治療の脱落	三浦. 薬理と治療 2000; 28: 187-210.
			三浦. 薬理と治療 2000; 28(Suppl.): 137-160.
59	深部静脈血栓症	TKA・THA 後の「DVT 発生あり」の確率	藤田. 整形外科 2000; 51(7): 745-749.
60	糖尿病	腎不全保存期から透析への年間移行率	池田. 病院管理 2007; 44(4): 353-362.
		透析における年間死亡率・心筋梗塞後の急性期死亡率・脳卒中後の急性期死亡率	池田. 病院管理 2007; 44(4): 353-362.
			Watanabe J. <i>Jpn Circ J</i> 2001; 65(11): 941-946.
			秋田県立脳血管研究センター.
		大血管症エンドポイントに関する追跡調査から得られたイベント発生率	山田信博. 厚生労働科学研究費補助金報告書 2004.
		喫煙率	健康・栄養情報研究会編. 国民健康・栄養の現状. 第一出版 2008.
国民健康・栄養調査	健康・栄養情報研究会編. 国民健康・栄養の現状. 第一出版 2008.		



図表 27 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
62	C型肝炎	年次遷移確率：慢性肝炎：代償性肝硬変	Takahashi M. <i>Am J Gastroenterol</i> 1993; 88: 240-243.
		年次遷移確率：慢性肝炎：肝細胞癌	Kobayashi M. <i>Hepatology</i> 1996; 23: 695-699.
			Shibata M. <i>Lancet</i> 1998; 351: 1773-1777.
		年次遷移確率：代償性肝硬変：非代償性肝硬変	Kaneko S. <i>Intervirology</i> 1994; 37: 108-113.
			Kato Y. <i>Cancer</i> 1994; 74:2234-2238.
		年次遷移確率：代償性肝硬変：肝細胞癌	Kaneko S. <i>Intervirology</i> 1994; 37: 108-113.
			Kato Y. <i>Cancer</i> 1994; 74:2234-2238.
			Niahiguchi S. <i>Lancet</i> 1995; 346: 1051-1055.
			Ikeda K. <i>Hepatology</i> 1993; 18: 47-53.
			Tanaka K. <i>Jpn J Cancer Res</i> 1998; 1241-1250.
			Miyasaka H. <i>Alcohol Clin Exp Res</i> 1996; 20: 91A-94A.
		年次遷移確率：非代償性肝硬変：肝細胞癌	Kato Y. <i>Cancer</i> 1994; 74:2234-2238.
			Van. <i>J Nucl Med</i> 1990; 31: 1168-1179.
			Niahiguchi S. <i>Lancet</i> 1995; 346: 1051-1055.
			Ikeda K. <i>Hepatology</i> 1993; 18: 47-53.
			Tanaka K. <i>Jpn J Cancer Res</i> 1998; 1241-1250.
Miyasaka H. <i>Alcohol Clin Exp Res</i> 1996; 20: 91A-94A.			
年次遷移確率：肝細胞癌：肝関連死	著者独自推定		

図表 28 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
76	インフルエンザ菌 b 型髄膜炎	インフルエンザ菌 (Hi) 髄膜炎罹患率	加藤. <i>小児感染免疫</i> 1998; 10: 209-214.
		インフルエンザ菌 (Hi) 髄膜炎罹患率:b 型	長谷川. <i>感染症誌</i> 2004; 78: 835-845.
79	前立腺がん (転移性)	転移性前立腺癌の生命予後	Fujikawa K. <i>Clinical Cancer Res</i> 1997; 3: 613-618.
84	C型肝炎	The prevalence of the viral genotypes in Japan	Ohno T. <i>J Clin Microbiol</i> 1997; 35: 201-207.
			Okamoto H. <i>J Virol Methods</i> 1996; 57: 31-45.
			Tanaka E. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> 1995; 10: 538-545.
86	骨粗鬆症	Proportion of screenees, according to BMD classification by DXA	Fujiwara S. <i>Tyouju Kagaku Kenkyuu Kenkyuhoukoku</i> 1995; 4: 508-511.
		Incidence of hip Fracture(per 10000 person year)	Orimo H. <i>J Bone Methab</i> 2000; 18: 126-131.
		Case-fatality rate of hip fracture	Kitamura S. <i>Clin Orthop</i> 1998; 348: 29-36.
		Prognostic probabilities after hip feature(%)	Kitamura S. <i>Clin Orthop</i> 1998; 348: 29-36.

図表 29 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
89	高血圧症	CHD and stroke risk	Kobayashi M. <i>Journal of Medical Informatics</i> 2005; 182-191.
		care level one level up yo the maximum level	Hirai S. <i>Igaku to Yakugaku</i> 2000; 44: 729-740.
		progression of diabetic nephropathy	Ikeda S. <i>Bunshi Tounyoubyougaku no Shinpo</i> 2003; 191-194. Shichiri M. <i>Diabetes Care</i> 2000; 23(Suppl2): B21-B29.
		The mortality rate after hemodialysis	Nakai S. <i>Jpn J Clin Dial</i> 2001; 17: 59-64.
		The rates of death by causes other than CVD and dialysis	厚生労働省大臣官房統計情報部. <i>簡易生命表</i> . 2005.
91	C型肝炎	Moderate hepatitis to Heptocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131(3): 174-180.
		Cirrhosis to Heptocellular caicinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131(3): 174-180.
		Ascites to Heptocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131(3): 174-180.
		Variceal hemorrhage to Heptocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131(3): 174-180.
		Hepatic encephalopathy to Heptocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131(3): 174-180.
		Heptocellular carcinoma to death	Oka H. <i>Hepatology</i> 1990; 12(4 pt 1): 180-16

図表 30 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
93	喫煙	禁煙成功率	厚生労働省中央社会保険医療協議会診療報酬改定結果検証部会資料: 診療報酬改定結果検証に係る特別調査(平成19年度調査).ニコチン依存症管理料算定保険医療機関における禁煙成功率の実態調査報告書, 2007.
			Nakamura M. <i>Efficacy and tolerability if Varenicline</i> 2007; 29: 1040-1056.
		肺がん罹患率	国立がん研センターがん対策情報センター: 地域がん登録全国推計値の罹患データ. がん情報サービス.
			厚生労働省. 人口動態統計 Matsuda M. <i>Jpn Clin Oncil</i> 2008; 38: 641-648.
		肺がんの相対リスク	Sobue T. <i>the JPHC study. Int. J. Cancer</i> 2002; 99: 245-251.
		肺がん死亡率	全がん協加盟施設の生存率協同調査. 地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究. 厚生労働省がん研究助成金.
		相対死亡リスク	祖父江. たばこに関する科学的知見の収集に係る研究, 平成18年度総括・分担研究報告書. 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策研究費補助金. 2006.
肺がん以外死亡率	厚生労働省 第20回生命表.		

図表 31 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
97	水痘	皆接種導入前:罹患数	国立感染症研究所感染症情報センター. 日本医事新報 2006; 4283: 64-49 安井. 平成 16 年度統括・分担研究報告書 2006: 49-62.
		皆接種導入前:小児科の全入院の 0.18%が水痘	堤. 平成 18-20 年度総合研究報告書 84-87.
		皆接種導入前:水痘入院の年齢分布	浅野. 平成 15 年度統括・分担研究報告書 16-64.
		各合併症の発生数	浅野. 平成 15 年度統括・分担研究報告書 16-64.
		水痘による入院(小児科)621人のうち後遺症死亡	多屋. 平成 17 年度統括・分担研究報告書 16-24.
		皆接種導入後の水痘:接種者の罹患数	Ozaki T. Vaccine 2000; 18(22): 231-235
		皆接種導入後の水痘:接種から罹患までの期間の分布	Ozaki T. Vaccine 2000; 18(22): 231-235

図表 32 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
111	褥瘡	外科的両方の合併症併発率	Koshima. 1993. (詳細不明)
			Sekiguti. 1995. (詳細不明)
			Yamamoto. 1993. (詳細不明)
			阿部. 1994. (詳細不明)
			棚瀬. 1994. (詳細不明)
			土田. 1990. (詳細不明)
			湊. 1994. (詳細不明)
			Koshima. 1993. (詳細不明)
		外科的療法の再発率	Sekiguti. 1995. (詳細不明)
			Yamamoto. 1993. (詳細不明)
			三川. 1995. (詳細不明)
			棚瀬. 1994. (詳細不明)
			谷口. 1990. (詳細不明)
			土田. 1990. (詳細不明)
			湊. 1990. (詳細不明)
			湊. 1994. (詳細不明)
保存的療法の閉鎖率	吉田. 1990. (詳細不明)		
保存的療法の治癒期間	吉田. 1990. (詳細不明)		

図表 33 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
114	高血圧症	冠動脈疾患(心筋梗塞、狭心症)と脳血管障害の発症	Shichiri M. <i>Diabetes Care</i> 2000; 23(Suppl2): B21-B29.
		秋田県における疫学研究	Shichiri M. <i>Diabetes Care</i> 2000; 23(Suppl2): B21-B29.
117	インフルエンザ	インフルエンザ感染者が肺炎を罹患する確率	Watanabe A. <i>Jpn J Chemother</i> 2001; 49: 95-102.
119	胃潰瘍(関節炎患者における)	Healing Rate of Gastric Ulcer: OPZ	Miyoshi A. <i>Jpn Pharmacol Ther</i> 1988; 16: 543-561.
			Miyoshi A. <i>Jpn Pharmacol Ther</i> 1988; 16: 517-541.
		Healing Rate of Gastric Ulcer: LPZ	Takemoto T. <i>J Adult Dis</i> 1991; 21: 327-345.
			Takemoto T. <i>J Adult Dis</i> 1991; 21: 327-345.
		Healing Rate of Gastric Ulcer: FAM	Miyoshi A. <i>Jpn Pharmacol Ther</i> 1988; 16: 543-561.
		Matsuo Y. <i>J Clin Ther Med</i> 1998; 14: 2058-2102.	

図表 34 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
121	高血圧症	無治療者の受診率	Health and Welfare Statistics Association. <i>The Fifth National Survey of Cardiovascular Diseases 2002.</i>
		Drug increase in treated individuals	Health and Welfare Statistics Association. <i>The Fifth National Survey of Cardiovascular Diseases 2002.</i>
		Consultation in untreated CBP HT individuals	Ohkubo T. <i>J Hypertens</i> 2000; 18: 847-854.
		血圧状態間の年間移行確率	大迫研究
		高血圧者及び正常血圧者の年間合併症発症率	Research Institute for Brain and Blood Vessels Akita. 2006.
			大迫研究
		降圧効果により減少する合併症発症リスク	Ohkubo T. <i>J Hypertens</i> 2000; 18: 847-854.
			Ohkubo T. <i>J Am Coll Cardiol</i> 2005; 46: 508-515.
		死亡率	Research Institute for Brain and Blood Vessels Akita. 2006.
	大迫研究		
死亡率: 秋田県立脳血管研究センター	Research Institute for Brain and Blood Vessels Akita. 2006.		
脳卒中未発症者死亡率:簡易生命表(平成 16 年)	Research Institute for Brain and Blood Vessels Akita. 2006.		

図表 35 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
127	パセドウ病 (グレーブス病)	The relapse rates after low-fixed-dose RIT and STT	Ohara T. <i>Common disease Series No.10 Thyroid Disease</i> 1989: 50-57.
		Annual or decade incidences of hypothyroidism after low-fixed-dose RIT	Aizawa Y. <i>Clin Endocrinol</i> 1997; 46: 1-5.
			Nuclear Medicine Notebook. <i>Kanehara &amp; Co, Ltd</i> 2001.
131	SIRS	30 日間の累積死亡率	玉熊. <i>臨床医薬</i> 1998; 14: 289-318.
		人工呼吸器離脱率	玉熊. <i>臨床医薬</i> 1998; 14: 289-318.
139	胃がん	集検の精度(感度・特異度)	深尾. <i>日消集検誌</i> 1995; 33(5): 594-596.
		胃癌患者の 5 年生存率	小松. <i>第 29 回日本消化器集団検診学会予報集</i> 1990. 47.
140	大腸がん	検討に用いた数値:大半	島田. <i>消化器集団検診</i> 1996; 34(6): 725-733.
		ポリペクトミーの大腸癌患者低下率	Winawer SJ. <i>N Engl J Med</i> 1993; 329: 1977-1981.
			斎藤. <i>平成 7 年度研究報告</i> 1996; 93-97.
		IFOBT2 日法:感度	桶渡. <i>胃と腸</i> 1993; 27: 833-838.
		SCS を併用した年の感度	日高. <i>消化器集団検診</i> 1996; 34(4): 456-462.
		IFOBT 陽性率	日高. <i>消化器集団検診</i> 1996; 34(4): 456-462.
		腺腫:罹患率	船山. <i>Gastroenterol Endosc</i> 1993; 35: 1835-1843.
		腺腫に対する IFOBT の感度	山本. <i>平成元年度研究報告</i> 1990: 32-36.
精密検査の感度	船山. <i>Gastroenterol Endosc</i> 1993; 35: 1835-1843.		

図表 36 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
143	高血圧症	その他の確立(状態 1 から 4、状態 2 から 3、状態 2 から 4、状態 3 から 4)	片山. <i>薬剤疫学</i> 1999; 4(1): 21-35.
		糖尿病の合併の有無、喫煙の有無、TC/HDL-C 比	軽症糖尿病 早期発見・早期管理. <i>中外医学社</i> 1999.
			国民栄養の現状 平成 12 年厚生労働省国民栄養調査結果. <i>第一出版</i> 2002.
		脳血管障害サブモデル	鈴木. <i>老年病予防</i> 2002; 1(1): 16-22.
			第 5 次循環器疾患基礎調査結果
			秋田県脳卒中省登録データ
			秋田県脳卒中省登録データ
		PROGRESS Collaborative Group. <i>Lancet</i> 2001; 358: 1033-1041.	
		脳血管障害発症率及び高潔症患者における脳血管障害発症リスク	鈴木. <i>老年病予防</i> 2002; 1(1): 16-22.
		高血圧患者の割合	第 5 次循環器疾患基礎調査結果
		脳血管障害後の死亡率及び日常生活動作(Activity of Daily Living)	秋田県脳卒中省登録データ
		脳血管障害の再発	PROGRESS Collaborative Group. <i>Lancet</i> 2001; 358: 1033-1041.
再発後の ADL	平井. <i>医学と薬学</i> 2000; 44(4): 729-740.		
CVD 以外の原因による死亡率	厚生労働省大臣官房統計情報部. <i>平成 12 年簡易生命表</i> . 厚生統計協会 2001.		

図表 37 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
155	乳がん	乳癌の頻度・有病率	財団法人宮城県対がん協会. 平成元年・平成5年度事業年報 1990-1994.
		期待生存年数:乳癌治療例と乳癌のないもの	厚生省大臣官房統計情報部. 第17回生命表. 厚生統計協会 1992.
		モデルに代入するその他の数値:厚生省研究班(大内班)	財団法人宮城県対がん協会. 平成元年・平成5年度事業年報 1990-1994.
158	骨粗鬆症	年間死亡率	Orimo H. <i>J Bone Methab</i> 2000; 18: 126-131.
		骨折発生率	Orimo H. <i>J Bone Methab</i> 2000; 18: 126-131.
		椎体	Fujiwara S. <i>J Bone Miner</i> 2003; 18: 1547-1553.
		橈骨遠位端	Hagino H. <i>Bone</i> 1999; 24(3): 265-270.
		上腕骨	Hagino H. <i>Bone</i> 1999; 24(3): 265-270.
		既存骨折が将来の骨折に及ぼす影響	林. 骨粗鬆症知慮の医療経済 2004; 42: 3645-3636.
		各年齢別の死亡率:平成17年簡易生命表	Fujiwara S. <i>J Bone Miner</i> 2003; 18: 1547-1553.
		年齢別の椎体骨折発生率	Fujiwara S. <i>J Bone Miner</i> 2003; 18: 1547-1553.
		大腿骨近医部・橈骨遠位端・上腕骨折の発生率	Hagino H. <i>Bone</i> 1999; 24: 265-270.
		既存椎体骨折による将来の骨折リスク	Fujiwara S. <i>J Bone Miner</i> 2003; 18: 1547-1553.
160	胃・十二指腸潰瘍	除菌治療では、治療中止となる副作用の発生割合	日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会. <i>日本ヘリコバクター学会誌</i> 2000; 2(supple): 2-12.
		除菌後に逆流性食道炎を発生する患者割合	日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会. <i>日本ヘリコバクター学会誌</i> 2000; 2(supple): 2-12.
		除菌治療の除菌	浅香. 第6回日本ヘリコバクター学会抄録集 2000; 90.
		H.pylori 罹患率	Nishikawa K. <i>Eur J Gastroenterol Hepatol</i> 2000; 12: 635-640.

図表 38 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
166	腎移植後の難治性急性拒絶反応	初期脱落率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		初期治療成功率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		拒絶反応再発率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		拒絶反応非再発率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		拒絶反応再発後の非寛解率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		拒絶反応再発後の寛解率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		再発を経ない腎機能廃絶移行率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.
		再発を経ない腎機能廃絶非移行率	打田. <i>移植</i> 1997; 32: 147-158.
			太田. <i>胃と透析</i> 1989; 27: 143-156.

図表 39 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
170	上部消化管出血	rate of hemostasis	A Miyoshi. <i>Rinshoiyaku</i> 1991; 7: 2737-2752.
			T kidokoro. <i>Yakuri to Chiryō</i> 1984; 14: 859-648.
			T Kamata. <i>Rinsyo Seijinbyo</i> 1984; 14: 859-86.
		recurrence rate	A Miyoshi. <i>Rinshoiyaku</i> 1991; 7: 2737-2752.
			T kidokoro. <i>Yakuri to Chiryō</i> 1984; 14: 859-648.
			T Kamata. <i>Rinsyo Seijinbyo</i> 1984; 14: 859-86.
		hemostatic rate	T kidokoro. <i>Yakuri to Chiryō</i> 1984; 14: 859-648.
			T kidokoro. <i>Yakuri to Chiryō</i> 1984; 14: 859-648.
			T Kamata. <i>Rinsyo Seijinbyo</i> 1984; 14: 859-86.
171	C型肝炎	肝疾患以外の死亡率	厚生統計協会編. <i>厚生指標 臨時増刊</i> 2001; 48: 473-479.
		patients who did not receive IFN therapy:Chronic hepatitis C:Compensated cirrhosis	Yousuf M. <i>Scand J Gastroenterol</i> 1992; 27: 812-816.
			Takahashi M. <i>Am J Gastroenterol</i> 1993; 88: 240-243.
			Kobayashi M. <i>Hepatology</i> 1996; 23: 695-699.
			Yano M. <i>Hepatology</i> 1996; 23: 1334-1340.

図表 40 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
171	C型肝炎	patients who did not receive IFN therapy:Chronic hepatitis C:Hepatocellular carcinoma	Takahashi M. <i>Am J Gastroenterol</i> 1993; 88: 240-243.
			Kobayashi M. <i>Hepatology</i> 1996; 23: 695-699.
			Shindo M. <i>Cancer</i> 1999; 85: 1943-1950.
			Kaneko S. <i>Intervirology</i> 1994; 37: 108-113.
			寺田. <i>肝臓</i> 1997; 38: 355-360.
			Ikeda K. <i>Hepatology</i> 1999; 29: 1124-1130.
			Takano S. <i>Hepatology</i> 1995; 21: 650-655.
			Tanaka H. <i>Int J Cancer</i> 2000; 87: 741-749.
			今関. <i>消化器科</i> 1998; 26: 98-103.
			Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131: 174-180.
		Imai Y. <i>Ann Intern Med</i> 1998; 129: 94-99.	
		patients who did not receive IFN therapy:Compensated cirrhosis:Hepatocellular carcinoma	Kaneko S. <i>Intervirology</i> 1994; 37: 108-113.
			池田. <i>肝硬変からの肝細胞癌発症</i> 1999; 21-40.
			Kato Y. <i>Cancer</i> 1994; 74:2234-2238.
			Nishiguchi S. <i>Lancet</i> 1995; 346: 1051-1055.
			Miyakawa H. <i>Alcohol Clin Exp Res</i> 1996; 20: 91A-94A.
			Tanaka K. <i>Jpn J Cancer Res</i> 1998; 89: 1241-1250.
			Shibata M. <i>Lancet</i> 1998; 351: 1773-1777.

図表 41 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
171	C型肝炎	patients who did not receive IFN therapy:Decompensated cirrhosis:Hepatocellular carcinoma	Kaneko S. <i>Intervirology</i> 1994; 37: 108-113.
			池田. <i>肝硬変からの肝細胞癌発症</i> 1999; 21-40.
			Kato Y. <i>Cancer</i> 1994; 74: 2234-2238.
			Nishiguchi S. <i>Lancet</i> 1995; 346: 1051-1055.
			Miyakawa H. <i>Alcohol Clin Exp Res</i> 1996; 20: 91A-94A.
			Tanaka K. <i>Jpn J Cancer Res</i> 1998; 89: 1241-1250.
			Shibata M. <i>Lancet</i> 1998; 351: 1773-1777.
		Okanoue T. <i>J Hepatologu</i> 1999; 30: 653-659.	
		patients who did not receive IFN therapy:Decompensated cirrhosis:Death	Nishiguchi S. <i>Lancet</i> 1995; 346: 1051-1055.
			Ikeda K. <i>Hepatology</i> 1993; 18: 47-53.

図表 42 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
171	C型肝炎	patients who did not receive IFN therapy:Hepatocellular carcinoma:Death	池田. <i>日本臨床</i> 1995; 53: 821-327.
			Ryu M. <i>Jpn J Clin Oncol</i> 1997; 27: 251-29.
			肝癌追跡調査委員会. <i>肝臓</i> 1997; 38: 317-330.
			Ikai I. <i>Ann Surg</i> 1998; 227: 433-449.
			Miyagawa S. <i>Hepato-Gastroenterology</i> 1998; 45: 2-6.
			佐々木. <i>日消外会誌</i> 1998; 31: 1255.
			鈴木. <i>日消外会誌</i> 1998; 31: 1255.
			武田. <i>日消外会誌</i> 1998; 31: 1398.
			高野. <i>日消外会誌</i> 1998; 31: 1445.
			江原. <i>消化器外科</i> 1998; 21: 473-479.



図表 43 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
171	C型肝炎	patients who received IFN therapy: Sustained response(SR): Compensated cirrhosis	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131: 174-180.
		patients who received IFN therapy: Sustained response(SR): Hepatocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131: 174-180.
		patients who received IFN therapy: Biochemical response(BR): Compensated cirrhosis	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131: 174-180.
		patients who received IFN therapy: Biochemical response(BR): Hepatocellular carcinoma	Yoshida H. <i>Ann Intern Med</i> 1999; 131: 174-180.

図表 44 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
172	高脂血症	各状態間の HR	Nakamura H. <i>Lancet</i> 2006; 368: 1155-1163.
173	喫煙	禁煙成功率：保険内服群	Nakamura M. <i>Clin Ther</i> 2007; 29: 1040-1056.
		禁煙成功率：保険パッチ群	診療報酬改定結果憲章に係る特別調査（平成 19 年度調査）ニコチン依存症管理科算定保険医療機関における禁煙成功率の実態調査報告書. 中央社会保険協議会. 2008; 1-36.
174	肺がん	モデルの変数に代入する数値	飯沼. <i>日本胸部臨床</i> 1999; 58: S157-a163.
175	前立腺がん	遷移確率	Kubota Y. <i>Prostate</i> 2002; 50: 262.
			Ito K. <i>Int J Cancer</i> 2004; 109: 455.
			Ito K. <i>J Urol</i> 2004; 171: 656.
			Ito K. <i>Urology</i> 2003; 62: 64.
		生検によるがんの分類ごとの割合	Kubota Y. <i>Prostate</i> 2002; 50: 262.

図表 45 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
177	高血圧症	各血圧状態間移行確率	大迫研究
		処方変更率	Ohkubo T. <i>Hypertens Res</i> 2004; 27: 755-763.
		既治療者の HBP 測定	大迫研究
		既治療者の処方変更	Ohkubo T. <i>Hypertens Res</i> 2004; 27: 755-763.
		無治療者の受診	Statistics and Information Department, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare. <i>The Fifth National Survey of Cardiovascular Diseases</i> 2002.
		無治療 CBP HT かつ受診した者の HBP 測定	大迫研究
		無治療 CBP NT かつ HBP 測定者の受診	Statistics and Information Department, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare. <i>The Fifth National Survey of Cardiovascular Diseases</i> 2002.
		高血圧者及び正常血圧者の年間合併症発症率	大迫研究 秋田県立脳血管研究センター
		降圧効果により減少する合併症発症リスク	Asayama K. <i>Hypertension</i> 2006; 48: 737-743.
		死亡率：脳卒中発症者および脳卒中発症後急性期	大迫研究 秋田県立脳血管研究センター
		死亡率：脳卒中未発症者	Statistics and Information Department, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare. <i>Abridged Life Tables For Japan</i> 2004, 2005.

図表 46 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
178	特定保健指導対象者への糖質異常症治療	Dropped out ratio from health guidance at 5years	Nakamura H. <i>Lancet</i> 2006; 368: 1155-1163.
		Efficacy ratio with AT 10mg	Kodama K. <i>Japanese Circulation Journal</i> 1990; 54: 414-421.
		Efficacy ratio with OTC	Okamura T. <i>Atherosclerosis</i> 2007; 190: 216-223.
		Incidence rate of first MI	Saito M. <i>American Heart Journal</i> 1987; 113: 891-897.
		Recurrence rate (5year cumulative)	<a href="http://www.ccunet-tokyo.jp/doukou/index.html">http://www.ccunet-tokyo.jp/doukou/index.html</a>
		Cholesterol-related RR	Hayashi T. <i>Circulation Journal</i> 2005; 69: 420-426.
		Pre hospital mortality of MI	山本. <i>臨床医薬</i> 1988; 4(3): 409-437.
		In hospital mortality of MI	駒野. <i>Progress in Medicine</i> 2005; 25: 131-142.
		Incremental consultation rate	厚生労働省. 第5次循環器疾患基礎調査 2000.

図表 47 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
178	特定保健指導対象者への糖質異常症治療	年齢別心筋梗塞発症率	Nakamura H. <i>Lancet</i> 2006; 368: 1155-1163.
		TC 値の上昇による相対危険率	Okamura T. <i>Atherosclerosis</i> 2007; 190: 216-223.
		5年間の心筋梗塞再発率	Saito M. <i>American Heart Journal</i> 1987; 113: 891-897.
		高コレステロール血症患者の医療機関受診率	厚生労働省. 第5次循環器疾患基礎調査 2000.
		薬物治療の効果	駒野. <i>Progress in Medicine</i> 2005; 25: 131-142.
		一般用医薬品の効果	山本. <i>臨床医薬</i> 1988; 4(3): 409-437.
		心筋梗塞による死亡率	Hayashi T. <i>Circulation Journal</i> 2005; 69: 420-426.
186	関節リウマチ	The ratio of female to male RA patients	Azuma T. <i>Nippon Rinsho</i> 1992; 50(3): 637-643.
		Six-ACR20 probabilities for MTX and SSZ	Kawai S. <i>Recent Adv Clin Pharmacol</i> 2002; 23: 47-51.
		For MTZ and SSZ, the 6-month probabilities of treatment discontinuation	RyumachiIchikawa Y. <i>Ryumachi</i> 1995; 35(4): 663-670.

図表 48 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
187	虚血性心疾患	Incidence rate of agranulocytosis	Incidence of Adverse Drug Reactions in Drug Use Surveillance 1988.
		Mortality of agranulocytosis	第一三共資料 2001.
		Incidence rate of serious hepatic dysfunction	第一三共資料 1988.
		Mortality of serious hepatic dysfunction	第一三共資料 2001.
		Mortality of TTP	第一三共資料 2001.
		Annual rate of cerebral hemorrhage	第一三共資料 1988.
		Mortality of cerebral hemorrhage	Takahashi H. <i>117th Annual Meeting Pharmaceutical Society of Japan</i> : 196-203.
		Overall adverse event rate	第一三共資料 1988.
188	慢性心疾患	The probability for worsening of heart failure monthly hospitalization rates	Habda S. <i>J Card Fail</i> 2000; 6(Suppl3): 123.
		mortality rate	Habda S. <i>J Card Fail</i> 2000; 6(Suppl3): 123.
			Thuchihashi. <i>Jpn Circ J</i> 2000; 64: 953-959.
		Dropout Rate	Habda S. <i>J Card Fail</i> 2000; 6(Suppl3): 123.

図表 49 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
193	高血圧症	The progression of diabetic nephropathy model	Ikeda S. <i>Bunshi Tounyoubyougaku no Shinpo</i> 2003; 191-194.
			Shichiri M. <i>Diabetes Care</i> 2000; 23(Suppl2): B21-B29.
		mortality rate after hemodialysis	Nakai S. <i>Jpn J Clin Dialysis</i> 2001; 17: 59-64.
196	喫煙	1年後の禁煙成功率：保険内服群	Nakamura M. <i>Clin Ther</i> 2007; 6: 1040-1056.
		1年後の禁煙成功率：保険パッチ群	診療報酬改定結果憲章に係る特別調査（平成19年度調査）ニコチン依存症管理科算定保険医療機関における禁煙成功率の実態調査報告書. <i>中央社会保険協議会</i> . 2008; 1-36.
		期待生存年	Murakami Y. <i>NIPPON DETA</i> 80 2007; 2: 31-37.
197	胃食道逆流症	再発率	関口. <i>臨床医薬</i> 2000; 16: 1387.
201	心房細動	ワルファリン療法：脳梗塞発生率	Inoue H. <i>Circ J</i> 2006; 70: 651-656.
		ワルファリン療法：脳内出血発生率	Suzuki S. <i>Circ J</i> 2007; 71: 761-765.
		ワルファリン療法：頭蓋内出血発生率	Suzuki S. <i>Circ J</i> 2007; 71: 761-765.
		ワルファリン療法：消化管出血発生率	Suzuki S. <i>Circ J</i> 2007; 71: 761-765.

図表 50 疾患領域別・評価対象別の状態推移確率データの被引用文献

ID	疾患領域	評価対象	被引用文献
201	心房細動	脳梗塞	小林編 脳卒中データバンク. <i>中山書店</i> 2009.
		脳梗塞：肺塞栓症急性期死亡率	Tokyo CCU network committee. <i>Cir J</i> 2010; 74: 289-281.
		脳梗塞：心筋梗塞急性期死亡症	Matsui K. <i>Circ J</i> 2007; 71: 1841-1844.
		脳梗塞：脳内出血	中川原. <i>医学の歩み</i> 2009; 228: 1057-1061.
		脳梗塞：頭蓋内出血	川上. <i>太田総合病院学術年報</i> 2005; 40: 15-20.
		障害度別のイベント以外死亡の相対危険度	武田. <i>日本公衛誌</i> 2004; 51: 157-167.
203	脳卒中予防	脳卒中初発後の再発	Hata J. <i>Psychiatr</i> 2005; 76: 368-372.
		日本人I度高血圧症における脳卒中年間罹患率	Ikeda A. <i>Am J Hypertens</i> 2009; 22: 273-280.
		脳卒中発症後の再発率	Hata J. <i>Psychiatr</i> 2005; 76: 368-372.
		脳卒中発症後の死亡率	Ministry of Health and Welfare, Measures to Stroke Control. <i>Investigation Committee Interim Report</i> 1999.
		脳卒中未発症の場合の死亡率	<a href="http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/he/life/life07/index.html">http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/he/life/life07/index.html</a>
		脳卒中発症後の障害状態の重症度	Kobayashi S. <i>Nosocchu Data Bank</i> 2005.